

失われたアークと剣山

✦ 文 岩本耕太郎 text by Kotaro Iwamoto ✦

前回で「契約の箱」であるアークについて述べましたが、アークにはユダヤの三種の神器であるアロンの杖、十戒石とマナの壺が納められていました。いずれもモーセがイスラエルの民をエジプトの捕虜から救い出した、いわゆる出エジプトと関わりのあるものです。

「アロンの杖」は掲げると葦の海が割れて道を開き、追ってきたエジプトの軍隊が海に飲み込まれた、という有名な逸話のものです。

「十戒石」はモーセがシナイ山で神から授かった戒律を記した石板のことで

「マナ」はエジプトを脱出したイスラエルの民が荒野で飢えに苦しんだ際にモーセの祈りに答えて天から降ってきた食べ物です。

都市伝説の類にはなりますが、この三種の神器を納めたアークが四国の剣山に持ち込まれたという話があります。以前、青森の「キリストの墓」について書きましたが、同じくらい眉唾な話にはなりませんので覚悟してください。

剣山本宮例大祭は毎年7月17日に行われます。奇しく祇園祭と同じ日で、旧約聖書の中に出てくる大洪水の後でノアの箱舟がアララト山に漂着したとされる日です。

神輿は通常は山から里へ神様を運びますが、剣山では逆に山頂にお運びします。山頂近くには宝蔵石神社があり、いかにも三種の神器との関連を連想させます。

剣山はまた鶴亀山とも呼ばれていて、鶴岩と亀岩があります。鶴と亀といえは「かごめかごめ」の歌を思い出します。子供の頃からよく知っている歌ですが、その歌詞の意味はさっぱり分かりません。カゴメ紋は三角形を二重に重ねた形で現在のイスラエルの国旗に使われている「ダビデの星」と同じです。

歌詞の中の「夜明けの晩に」、「鶴と亀がすべった」や「後ろの正面」など、言われてみれば日本語としては奇妙な表現ではないでしょうか。一説によるとヘブライ語として読むと意味の通る文章になるそうです。

剣山の亀岩の下を発掘した人がい

て、地下131mのところにも巨大な球体の「太陽岩」や、さらにその下に大理石の門や高さ15mのピラミッド型の空間が見つかったり、ミイラが1000体以上も出てきたりしたそうです。剣山には元駐日イスラエル大使も特別の興味を寄せており、案外信憑性があるのかもしれない。



profile

帝国クリニック院長

1959年生まれ。幼少期をボストンで過ごす。

山形大学医学部卒。米国イリノイ州立大学で分子生物学を研究、1993年より現職。

サーフィンとクラシックカーをこよなく愛し、4世代7人家族。

著書に『患者さまが増える』（H&I出版）、『エグゼクティブが実践するたった一つの健康法』（中経出版）